Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

PEM032-P25 会場:コンベンションホール 時間:5 月 27 日 10:30-13:00

可搬型共鳴散乱ライダーによる中間圏カルシウムイオンの観測
Observation of mesospheric Ca ion by mobile resonance lidar

阿保 真 [1*], 中村 卓司 [2], 江尻 省 [2], 鈴木 秀彦 [2]
Makoto Abo[1*], Takuji Nakamura[2], Mitsumu Ejiri[2], Hidehiko Suzuki[2]

[1] 首都大学東京, [2] 国立極地研究所
[1]Tokyo Metropolitan University, [2]NIPR

我々は、レーダーや各種大気光観測装置、イオノゾンデ、GPS 受信機など種々の測器との協同観測で、sporadic 層などの突発現象の成因、電離層と中性大気の相互作用、大気波動と砕波による鉛直輸送、大気光や金属層のダブルピーク現象の構造と成因解明、中緯度 PMSE の生成など多くの未解明の現象の解明を目的として、コンテナベースの可搬型の共鳴散乱ライダーを開発した。最初の移動観測として、京都大学の MU 観測所敷地内にコンテナを設置し、MU レーダーの流星観測モードによる流星の降り込みや中間圏界面領域の風分布との比較を目的として、Ca イオンの観測を開始した。sporadic 中性層と電離層の sporadic E 層との関係を観測的に調べるためには、sporadic E 層の構成要素と言われている金属イオンの直接観測が有用である。今回は初期観測結果について報告する。

キーワード: カルシウムイオン, 中間圏界面, ライダー
Keywords: Ca ion, mesopause, lidar